

「輸送・貯蔵専門調査会」2025年度会員募集について

2025年
一般社団法人 日本原子力産業協会

当協会は、産業基盤強化活動として、「輸送・貯蔵専門調査会」を設置して、専門分野に関する情報の共有化、業界の相互交流の場を提供し、輸送・貯蔵関連産業の育成・発展を図るための業際活動を実施いたしております。具体的には定例会において、講演、パネル討論、施設見学および意見交換を実施いたしております。

つきましては、各種関連業務に従事される方々におかれまして、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

○会員募集要綱

1. 趣旨 別紙－1

※参考資料に活動実績を添付します。

2. 調査会年会費：1名につき(消費税10%を含む)

日本原子力産業協会の会員企業・機関にご所属の方……143,000円
(準会員:22,000円)

上記以外の方……………286,000円
(準会員:44,000円)

同企業・機関にご所属の2人目からは、準会員制度の適用があります。

年会費は、定例会合費、資料代等活動の運営に充当します。

ただし、施設見学会等の特別な費用は除きます。

3. お申込み

以下の5項目について下記問い合わせ先まで、メール等にてご連絡下さい。

- ①(ご登録者)氏名・フリガナ
- ②会員の種類(正会員もしくは準会員)
- ③連絡先(会社(団体)名、所属・役職、住所、電話、FAX、E-mail)
- ④請求書送付先(※上記連絡先と異なる場合にご記入下さい)
- ⑤ご希望の講演テーマ・講演者、施設見学先(※ご意見・ご要望等がございましたら、ご記入下さい)

4. 問い合わせ先

一般社団法人 日本原子力産業協会 地域交流部
〒102-0084 東京都千代田区二番町11-19 興和二番町ビル 5階
TEL:03-6256-9314 FAX:03-6256-9310
E-mail:yschosakai@jaif.or.jp

以上

「輸送・貯蔵専門調査会」について

趣旨:

放射性物質輸送は、原子力開発利用の進展にともない多種・多様化している。特に近年では、使用済燃料の中間貯蔵、MOX 燃料製造、原子炉廃止措置など諸情勢の新展開に対し、所要の機器やシステムの研究開発および技術的対応、規格基準の整備など、適確に対応していくことが求められている。さらにこれらは、国際標準や国際条約の要件を満たすことも必要である。また、燃料、廃棄物の貯蔵とのインターフェイスが重視され、システムとしての技術開発も重要となっている。

「輸送・貯蔵専門調査会」は、原子燃料物質等の輸送および貯蔵に関する研究・技術開発動向、ならびに関連法令や技術基準の国際動向などの現状および将来見通し、課題・対策などに関して、講演、パネル討論、関連施設の見学および意見交換を通じ、専門情報の提供・交流を行い、産業界の発展に資することを目的とする。

【コーディネータ】

有富 正憲 東京工業大学 名誉教授

【副コーディネータ】

伊藤 大一郎 原燃輸送(株) 設計・開発部 マネージャー

【活動内容】

参加会員から希望テーマ(講演・見学先)の提案を受けた上で、それに基づき企画し、年間7回(2025年7月から1年間)程度の定例会合を実施する。テーマは、半期ごとに幹事会にて検討し、会員にお知らせする。

【テーマの例】

- ① IAEA を中心とする国際動向および国内法令、規則等の改定動向
- ② 国内および海外における使用済燃料の中間貯蔵、原子燃料物質の輸送の現状と将来の課題
- ③ 学会、および民間基準策定の動向と課題
- ④ 原子燃料サイクル施設と輸送問題の検討
- ⑤ 廃炉や設備更新に伴う大型放射性廃棄物や大量の放射性廃棄物の処分に関する輸送の課題等
- ⑥ 地震に伴う原発事故の現状と今後の取組み

(参考資料)

(敬称略)

2024年度の活動

No.	開催日	テーマ	講演者
第 129 回 2024-1	7 月 9 日	① 「持続的な原子炉・核燃料サイクル検討・提言分科会」最終報告書 ② 使用済燃料等の輸送・貯蔵のための遮蔽解析コード V&V ③ 「核燃料サイクルの成立性」研究専門委員会からの提言	齊藤 拓巳(日本原子力学会) 後神 進史(原子力規制庁) 佐藤 勇(日本原子力学会)
第 130 回 2024-2	9 月 3 日	① 2024 年 IAEA 使用済燃料管理国際会議 (SFM24) 報告 ② 放射性物質の輸送・貯蔵の歴史を語る ③ 世界原子力輸送協会 (WNTI) 派遣員報告	白井 孝治(電中研) 小鍛治 市造/三枝 利有 (輸送・貯蔵を語る会) 岡部 幸夫(原燃輸送)
第 131 回 2024-3	10 月 11 日	見学会 (国研)日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター	人形峠環境技術センター 概要説明と見学
第 132 回 2024-4	12 月 3 日	① 原子力の安全を支える基盤の強化 ② 試験研究炉の低濃縮化に関する取り組みと国際動向 ③ 低線量・低線量率放射線の影響	更田 豊志(NDF/東京大学) 宇根崎 博信(京都大学) 富田 雅典(電中研)
第 133 回 2024-5	2 月 4 日	① エジプトの教育とエネルギー –エジプト 日本科学技術大学設立プロジェクトに参加して– ② 海上輸送中に得られたキャスク振動データの解析 ③ ORIGEN2 用断面積ライブラリの開発の経験と今後の展望	鈴木 正昭(東京工業大学) 平尾 好弘(海技研) 須山 賢也(JAEA)
第 134 回 2024-6	3 月 4 日	① 放射性廃棄物を資源に変える技術革新 –サステナブルな原子力利用への鍵– ② ガンマ線の簡易遮蔽計算コード POKER の開発と応用 ③ むつ中間貯蔵施設への輸送	菅原 隆徳(JAEA) 平尾 好弘(海技研) 島 晃洋(東京電力 HD)
第 135 回 2024-7	5 月 13 日	① 使用済燃料の中間貯蔵の合理化の可能性 –燃焼度クレジットと崩壊熱適正評価– ② 輸送容器の放射線遮蔽に関する活動 ③ 透明な酸化物の研究から生まれた学術と応用	名内 泰志(電中研) 坂本 幸夫(アトックス) 細野 秀雄(東京工業大学)

2023年度の活動

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 122 回 2023-1	7 月 11 日	① 原子力政策の動向について ② 東京大学原子炉「弥生」廃止措置における高濃縮ウラン燃料の米国返還 ③ 放射性物質の輸送・貯蔵を語る会の活動紹介 -放射性物質輸送のすべて(第2版)の改訂案提示	市川 博規(経産省) 鈴木 美寿/吉廻 智江 (東京大学) 三枝利有/北村隆文 (輸送・貯蔵を語る会)
第 123 回 2023-2	9 月 12 日	① 日本のバックエンド対策(含む、サイクル政策)の動向と主要国の現状について ② 次世代に技術をつなぐ原子力分野でのナレッジマネジメント活動 ③ 玄海原子力発電所の使用済燃料乾式貯蔵施設の設置について【施設の概要】	山内 豊明(日本原子力発電) 松井 哲也(日立 GE) 松永 考史(九州電力)
第 124 回 2023-3	10 月 13 日	見学会 (国研)日本原子力研究開発機構 高速増殖原型炉もんじゅ	高速増殖原型炉もんじゅ 概要説明と見学
第 125 回 2023-4	12 月 12 日	PATRAM2022(2023 年 6 月、フランス)特集 イントロダクション 1) 会議準備(Road to PATRAM2022) 2) プレナリー、キーノート他 3) 技術発表内容 1(輸送物設計) 4) 技術発表内容 2(規則関連、輸送物設計) 5) 技術発表内容 3(輸送実務関連、規則関連) 6) 技術発表内容 4(教育訓練、規則関連) 7) 展示、イベント 8) 褒章委員会(青木賞)、次回開催地	亘 真澄(電中研) 伊藤 大一郎(原燃輸送) 亘 真澄(電中研) 中河 良太(三菱重工) 野島 大孝(原燃輸送) 萩谷 拓悠(JAEA) 高田 真人(原子燃料工業) 山崎 俊明(日軽金アクト) 野島 大孝(原燃輸送)
第 126 回 2023-5	1 月 29 日	① ホルテック社 使用済燃料の輸送及び乾式保管技術の紹介 ② IAEA 輸送拒否 WG の動向 ③ 革新炉(高速炉・ガス炉)への取り組みについて	志村 孝夫(Holtec Japan) 伊藤 大一郎(原燃輸送) 黒目 和也(三菱重工)
第 127 回 2023-6	3 月 12 日	① 原子力発電所の建設 ② 高燃焼度燃料の長期健全性評価 ③ JMOX 容器(NFT-M4P/M12B)の許認可	高橋 明男(JAIF) 清水 仁(日立 GE) 矢田 満(原燃輸送)
第 128 回 2023-7	5 月 14 日	① 世界のエネルギー危機、今後の原子力 -原子力回帰の現状と展望- ② 福井県クリアランス集中処理事業について ③ IAEA 輸送規則改訂:A1/A2 値の変更の技術的根拠について	黒田 雄二(海外電力調査会) 前田 耕作(福井県) 近内 亜紀子(海技研)

2022年度の活動

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 115 回 2022-1	7 月 12 日	① 美浜・高浜発電所の 40 年以降運転に向けた取組みについて ② 使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準:2021 ③ IAEA 輸送時緊急時対応ガイド改定版 SSG-65 (2022 年 1 月出版) について	瀬戸 晶大(関西電力) 白井 茂明(日本原子力学会) 伊藤 大 一 郎(原燃輸送) 近内 亜紀子(海技研)
第 116 回 2022-2	9 月 13 日	① 3号機使用済燃料取り出し完了までの道のり ② 浜岡原子力発電所におけるクリアランス制度に係る取り組み状況 ③ TNグループの日本における使用済燃料キャスク開発の歴史と今後の展望	府川 慶太(東京電力 HD) 仲神 元順(中部電力) 谷内 廣明(トランスニュークリア)
第 117 回 2022-3	10 月 21 日	見学会 東京電力 HD(株)・福島第一原子力発電所	福島第一原子力発電所 概要説明と見学
第 118 回 2022-4	12 月 13 日	① 国際原子力人材育成大学連合ネットワークによる原子力教育活動 ② IAEA 輸送規則助言文書 SSG-26 改定版について ③ IAEA/SAR 作成ガイド SSG-66 の策定経緯及び概要	西村 章(東工大) 広瀬 誠(海技研) 伊藤 大 一 郎(原燃輸送)
第 119 回 2022-5	2 月 14 日	① カーボンニュートラルポート(CNP)の形成に向けて ② カーボンニュートラルに向けた世界および日本のエネルギーシステムにおける水素の寄与 ③ 福島第一原子力発電所廃炉研究開発の現状	西尾 保之(国土交通省) 石本 祐樹(エネ総研) 奥住 直明(IRID)
第 120 回 2022-6	3 月 14 日	① AR/GIS 防災コンテンツと原子力防災への適用の可能性 ② 原子力における安全文化醸成への取り組み ③ 福島第二原子力発電所の廃止措置計画の概要と使用済燃料の乾式貯蔵施設の設置計画 ④ 東双みらい製造の設立と今後の計画について	山本 佳世子(電気通信大学) 前田 典幸(JANSI) 大塚 康介(東京電力 HD) 原田 友和(東双みらい製造)
第 121 回 2022-7	5 月 23 日	① 福島第一における ALPS 処理水海洋放出に向けた取り組み ② コンクリートキャスクを中心とした米国の貯蔵研究動向 ③ IAEA 輸送規則 2021 年開始見直し/改定プロセスについて	入野 隆之(東京電力 HD) 亘 真澄(電中研) 近内 亜紀子(海技研)